第１回那須烏山市総合政策審議会 会議録

■日　時：令和元年８月８日（木）午前１０：００〜午前１１：５０

■場　所：烏山庁舎２階 第４会議室

■出 席 者：

（審議会委員）

 中村祐司会長、仲澤清一委員、石川翔平委員、加藤忠一委員、山村浩之委員、荒井一浩委員、

島崎健一委員、柳田京子委員、髙橋誠一委員、田島久男委員、飯田淳一委員

※欠席：川俣優委員、中村恵之委員、澤村豊純委員、髙橋寛之委員

（市役所）

 　 ○総合政策課：石川参事兼課長、髙野課長補佐、櫻井係長、倉堀主事

（担当課）

　　○都市建設課：鈴木補佐、高橋主任　○上下水道課：高田補佐、手塚主任

　　○健康福祉課：水上課長、海老原保健師副主幹　〇商工観光課：小原沢課長、関主幹、藤野補佐

　　○学校教育課：神野課長、齋藤主幹　○生涯学習課：菊地課長、小峯主幹、吉葉補佐

■協議内容（概要）

総合戦略事業の効果検証について

　≪立地適正化計画策定事業≫

　　会長）公共交通等のネットワークとは具体的に何を想定しているのか。

　　都市建設課）市街地と周辺集落を公共交通等のネットワークで結ぶ場合に、例えば現在運行しているデマンドタクシーが良いのか新たな交通手段が良いのか今後検討していくことになる。

≪浄化槽設置整備の推進≫

　　会長）汚水処理施設の普及についての課題は何か。

　　上下水道課）空き家等の影響もあり特に烏山地区での普及率が低い状況である。今後、単独浄化槽の撤去と併せて普及ＰＲ活動をしていく。

　≪脳元気教室ほか≫

　　会長）脳元気教室は大変ユニークな内容であるが、他自治体でも実施しているのか。

　　健康福祉課）市独自の取り組みである。

会長）このような取り組みが進んでいくと大変効果的である。

　≪高齢者ふれあいの里事業≫

　　会長）住民主体とはどのような内容か。

　　健康福祉課）自主的に市民の方が自宅を開放し、簡単な運動やものづくりなどを行っている。（実績２件）地域の引きこもり予防にも繋がっている。

　　会長）住民が主体となりこのような活動が進むことは大変良いことである。

　　委員）例えば、足の不自由な方への対応はしているのか。

　　健康福祉課）各地域において送迎も行っていただいている。

　　委員）大変すばらしい取り組みだと思う。

　　委員）自主的な取り組みをするにあたって、何か条件的なものはあるのか。また、活動中にけが

をした場合の対応など心配なところもある。

　　健康福祉課）特に明確な条件はない。また、自主的な取り組みに対しては、社会福祉協議会から活動費に対する助成制度がある。

≪在宅医療の普及啓発事業≫

　　会長）在宅医療を必要としている方を把握するような取り組みはしているのか。

　　健康福祉課）病院の病床数に限りがあることから、入院から在宅医療に移行するような流れとなっている。ただ、訪問看護や医師の協力が不可欠ある。市としては終活ノートの普及啓発に力を入れている。

≪企業誘致条例の運用ほか≫

　　会長）事業用地登録物件について、抹消６件とはどういうことか。

　　商工観光課）市を介さないで直接取引されたものや事情により登録を外したものが６件あった。

≪企業の誘致及び立地の促進≫

　　会長）ベンチャープラザはなぜ廃止するのか。

　　商工観光課）施設の老朽化が進んでいるためベンチャープラザは廃止することとしているが、商工会として、今後も創業支援事業は継続していく方向である。

　　委員）太陽光発電関係の企業誘致奨励金の認定数が多いが、工業用地の造成等企業誘致への影響

はないのか。

　　商工観光課）太陽光発電に係る企業誘致奨励金は、平成29年度をもって終了している。また、現段階で、市内に工業団地を造成するような計画はない。

　　総合政策課）近年の太陽光発電は、山林を伐採した事業が多く、工業用地として活用できるような場所への設置はほとんどないため、直接の影響はないと思われる。

≪観光振興対策≫

　　会長）2020年の東京オリンピックと関連した観光振興策についての考えはいかがか。

　　商工観光課）2020年の東京オリンピック及び2022年の栃木国体を絶好の機会と捉え、本市への観光客誘客に努めていく。例えば山あげ祭のＰＲについてもこれまでの紙ベース（チラシ）の広報ではなく、訪日外国人等に配慮した内容となるよう検討していく。さらに、通年観光に向けた取り組みも併せて進めていく。

　　会長）まちなか観光ネットワークについて、課題となっていることはあるか。

　　商工観光課）東日本大震災以降、観光客が減少しており、原因としては温泉施設や観光やなが少なくなってきたことが考えられる。また、まちなか観光の課題としては、観光客が市内で買い物をしていただき、地元の飲食店等にお金を落としていただけるような流れを作っていきたい。

　　委員）普段、市内を歩いていて魅力ある観光スポットが分かりずらい。ＰＲ不足ではないか。

　　商工観光課）観光ＰＲはもとより稼ぐ観光に向けて、観光協会と連携して事業を進めていきたい。

　≪中心市街地の活性化≫

　　委員）空き店舗新規出店者開業費用支援につて、見直しをした内容とは。

　　商工観光課）支援金額を15万円から50万円に拡大した。（実績としては、３件：カフェ、学習塾、鍼灸院）

　≪県立烏山高等学校との連携≫

　　委員）烏山高等学校に通学する生徒への通学費補助を今年度で廃止するとあるが、出願率向上に

繋がったのか。

　　学校教育課）当該補助制度だけが要因ではないが、出願率については、補助を行う時点で1.0未満であったものが、平成３０年度以降は1.0を超えている状況である。

≪その他≫

　　委員）市内の学校において、例えば暖房設備の設置要望等があった場合は、スムーズに対応して

　　　　　いるのか。

　　学校教育課）学校設備等において、学校から要望があった場合は、財源について財政担当と調整した上で、可能な限り対応している。

≪英語ビレッジ構想の推進≫

　　委員）なすから英語塾の受講者たちが自主的にサークル活動をされているとあるが、市観光協会

において、今後、インバウンド対策を検討していく中で、この自主的サークルの方々と連

携できる体制づくりができればと思っている。

　　　委員）ＡＬＴの活動実態は。

　　　学校教育課）ＡＬＴは、各小中学校に各１名配置している。また、幼稚園や保育園でもＡＬＴによる英語のプログラムを実施している。

　　　委員）小さいころから英語に触れることは大変有意義である。ＡＬＴを活用し日常的に英語に触れる機会を増やしていただきたい。英語の学力向上にも繋がると思う。

≪文化財の保護及び活用≫

　　委員）鴻野山の大溜近くに小高い山があり、そこは、昔、将軍たちが戦に行く際に必勝祈願をし

たという言い伝えもあることから、東山道に付随するものとして活用していくとよい。

　≪都市住民との交流促進≫

　　会長）マラソン大会で、中学生の参加が少ないとあるが、何か原因があるのか。

　　生涯学習課）以前は健康マラソンということで、中学生については、部活動の一環的な意味合いがあったが、現在は任意参加であり参加費もかかることから、参加者数が少ない状況である。今後、ＰＲに努めていきたい。

　≪子どもを育てやすい生活環境の整備≫

　　会長）放課後子ども教室について、夏休み期間中は７日間で時間も限定的であるが、拡充は難し

いのか。夏休み期間中こそ子供たちの居場所づくりが必要と思う。

　　生涯学習課）受け手側の体制として、ほとんどがボランティアであることから拡充は難しい状況である。

　　≪ふるさと応援寄付金の活用≫

　　委員）返礼品の中で玉ちゃん餃子とあるが、名前の由来は何か。

　　総合政策課）餃子を作っている会社名が玉ちゃん餃子である。名前の由来は不明である。

　　　委員）返礼品が69品目あるが、選択肢が多いのは良いことである。

　　≪ホームページリニューアル≫

　　会長）フェイスブックやツイッター、インスタグラム等を活用した情報発信についての取り組み

状況は。ＳＮＳは有効であると思う。

総合政策課）既にフェイスブックやツイッター、インスタグラム等を活用した情報発信については、既に取り組んでいる。

≪ＪＲ烏山線の利用向上≫

　　委員）職員自ら率先してＪＲ烏山線を活用すべきと思う。利用実態は把握しているか。ＪＲ烏山

線は市にとって重要であることから、存続できるよう努めていただきたい。

　　総合政策課）職員個人の利用実態は不明であるが、市としては、ＪＲ烏山線の利用向上に取り組んでいる。具体的には、宇都宮方面への出張の際には、可能な限りＪＲ烏山線を利用するよう、職員に回数券を配布している。